

ゲンタツ瀬表層堆積図

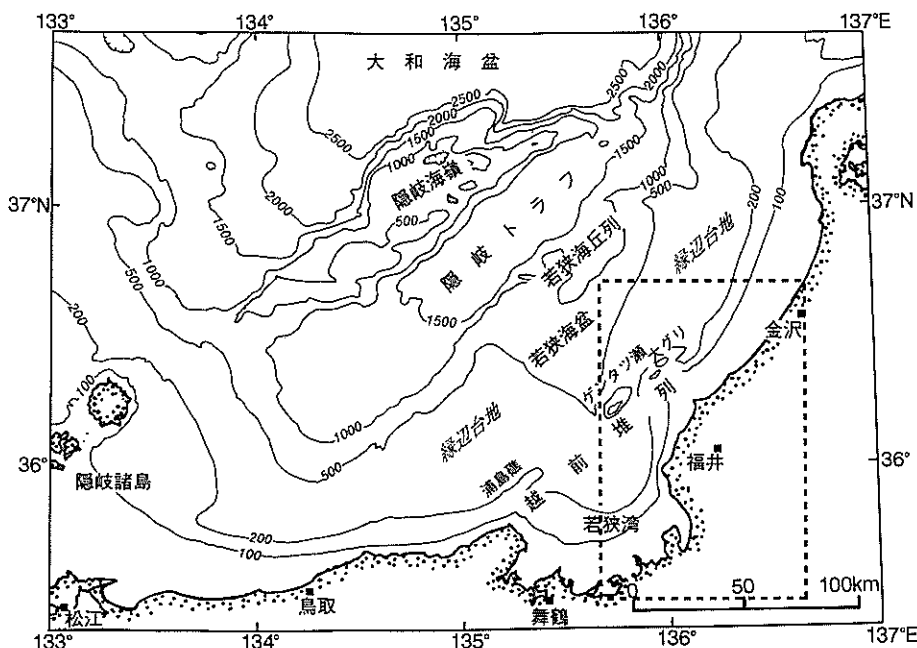
片山 肇¹⁾・佐藤 幹夫²⁾・池原 研¹⁾

ゲンタツ瀬海域は福井県から石川県南部にかけての沖合の日本海に位置しています。沿岸には若狭湾、越前岬や東尋坊の断崖、石川県の砂浜海岸があります。この地域の海底にはどんな堆積物があるのでしょうか。

鳥取県沖から石川県西方にかけての海底地形は、隠岐海嶺、若狭海丘列、越前堆列と呼ばれる北東-南西方向に延びる高まりの列と、それらの間の隠岐トラフや若狭海盆などの窪み、縁辺台地と呼ばれる水深約200-500mの平坦面を特徴としています(第1図)。ゲンタツ瀬海域には、若狭湾とゲンタツ瀬など越前堆列の東半分、縁辺台地および若狭海盆の一部が含まれます。

この海域の堆積物は陸棚上の砂と縁辺台地や若狭海盆の泥に大きく分けられます。堆積物の分布は、対馬暖流の影響を受けた表層水と日本海固有水と呼ばれる深層水からなる日本海の海水の成層構造を反映していると考えられます。

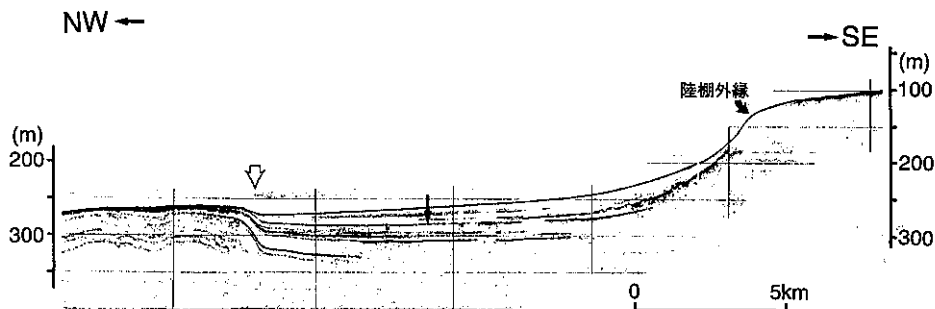
若狭湾内陸棚上の砂には泥がかなり含まれており、現在移動しているものではないと考えられます。含泥率は若狭湾西部よりも東部で低く、外洋水が若狭湾東部から流入し、時計回りの循環流が卓越していることを反映していると推定されます。石川県沖の陸棚上には、泥分をほとんど含まない砂が分布しています。ここには堆積物が線状に配列した堆積構造が見られ、流れの影響を受



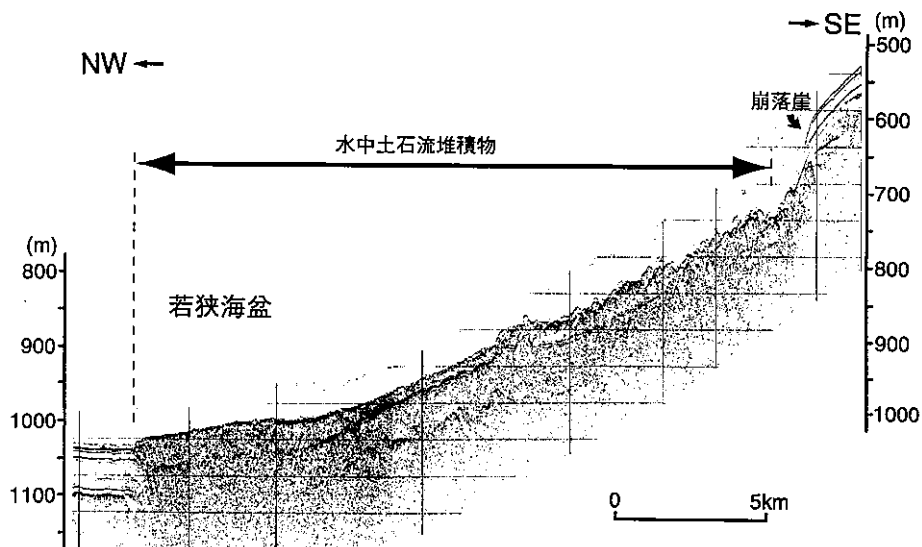
第1図 山陰-北陸沖の海底地形とゲンタツ瀬図幅の範囲(破線)。

1) 産総研 海洋資源環境研究部門
2) 産総研 地図資源環境研究部門

キーワード: 日本海, ゲンタツ瀬, 表層堆積図, 堆積作用, 音波探査



第2図 若狭湾—ゲンタツ瀬南方の音波探査記録。黒矢印がAT火山灰に対比される反射面、この反射面より上位の堆積層の厚さは、白矢印のところ急激に変化している。



第3図 若狭海盆北東斜面の音波探査記録。斜面上部に崩落崖があり、斜面下部から海盆底には水中土石流堆積物に特徴的な記録が見られる。

けていることを示しています。また、手取川河口沖には礫が分布しています。これは、氷期に海面が低下していた時代の手取川の扇状地堆積物が残存しているものと考えられます。ゲンタツ瀬の上には陸からの堆積物はほとんど運ばれて来ず、主に生物の遺骸からなる砂が岩盤の上を薄く覆っています。

縁辺台地上には泥が広く分布しています。この海域の音波探査記録では、成層した反射面が観察されます。このうち、海底面に最も近い顕著な反射面は、約24,500年前の始良-Tn(AT)火山灰に対比されています。この反射面の深度を追跡することによって、AT火山灰堆積以降に、どこにどれだけのものが堆積したかがわかります。石川県西方や若狭湾沖の縁辺台地では、鳥取～経ヶ岬沖の縁

辺台地よりも多くのものが堆積しています。また、ゲンタツ瀬南方では、断層にそって厚さが急激に変化しており、断層活動で生じた地形的な凹凸をならすように堆積していることがわかります(第2図)。

若狭海盆も広く泥に覆われています。縁辺台地から若狭海盆に至る斜面の上部には崩落崖があり、斜面下部には水中土石流堆積物を示すような特徴的な音波探査記録が見られます(第3図)。斜面が崩れて堆積物がまとまって海盆底に運ばれていることがわかります。

KATAYAMA Hajime, SATOH Mikio and IKEHARA Ken (2002): Introduction of the sedimentological map of Gentatsu-se.

<受付: 2001年12月22日>